

●中聖牛設置のリハーサルを 11 月 16 日(土)13:00 に行います 玉水橋東詰め広場(竹蛇籠製作場所) いよいよ目前に迫ってきた中聖牛の第三回の設置を前に、今年の中聖牛の本体を組み上げられるように組立手順を身につけようと考えています。ぶっつけ本番で学ぶ前に自力で学んで準備してきたシナリオ通りに進めて、一度は体験しておくことが必要との結論になり、一週間前になりますが、リハーサルを実施します。約 2 時間を予定していますので、興味と関心をお持ちの方はぜひお越しください。ワイワイガヤガヤ語り合いながら、素人集団で取り組んでみましょう。この経験を活かして、本番で手本の取組を見せてもらって、さらに理解を深められたらと思います。今後幾度も本番の原小組さんのお越しをお願いできなくなると思われますので、リハーサルでの教訓や課題を整理しておけば大変有意義だと思います。小雨決行で、参加費無料です。気楽にお越しください。

●木津川希少植物生育調査管理業務のうち 植生調査 39 ヲ所 11 月 8 日実施 国土交通省から発注を受けて取り組み始めて 3 年目になりました。調査個所も 39 個所に増加し、除草面積も 15000 m²になって、相当大規模な取り組みになりました。今年最後の希少植物の生育調査をメンバー 6 人で行いました。これまでなかなか巡り合う機会がなかったタヌキマメに出逢うことが出来ました。夏の調査では確認できませんでしたが 4~5 本が生育してくれていました。姿かたちがかなりユニークなもので、増えてくれればと願ってきました。観察発見した皆さんは、ささやかに生育してくれて感激しましたと感想を述べておられました。里山の会が希少植物の生育調査を本格的に開始してツルフジバカマ、コヒロハハナヤスリ、ビードモウズイカ、スズサイコなどが見かけられなくなり心配しておりました。そのうちスズサイコとタヌキマメの生育が確認できたのです。調査にかかわっておられる皆様の献身的な調査活動によって大きな成果であります。この活動は今地球温暖化による環境の大変化が進む中での調査なので大変意義深いものがあります。頑張って継続していただきたいものです。中で何よりも絶滅寸前であったイヌハギの増化が実現しているのは本当にすごい成果です。この経験を大いに学び環境変化に負けそうになっている植物を激励していきましょう。

●木津川希少植物生育調査管理業務のうち 除草作業 39 個所 15000 m²のうち 2660 m²を除草 達成率 17%で 11 月には 100%へ

業務の受注のうち除草作業が最も苦勞の多い重労働です。30 度近い急傾斜地での草刈り作業です。自動走行式の草刈り機(ハンマーモア)を使用する作業です。斜面は比較的平らなので、無理せず落ち着いて作業をおこなえば安全な作業です。ところが繁茂する植物にとって適地だったものすごく密集しています。そして日影がなく十分に太陽の光を受けられるので、すごい成長となりますし、茎が太く硬く高くなります。スピードを落とし最低速度にしますが能力を超えてしまうので、大いに工夫をこらし負荷を半分以下にするために半分の刈幅を 45 cmにして進むことになります。それでもエンジンがストップしてしまうことが度々です。作業を行うものにとってエンジンのストップは作業能率や機械の調子が狂ってしまうことが一番苦手でもあります。苦勞しなくても進行できるよう、調子が悪くならないよう、随分と気を使っています。里山の会は片道 100m 以上(一方通行で 15 分くらいはかかる)という長さのところもかなりあるので、注意力や緊張力の継続が必要になります。その上急傾斜地で前方への注意、足元の安全確保等に十分注意を払いながらの作業となっています。できるだけ現地状況特徴を体験的に経験できれば、気楽に作業に取り組めるのですが、うまくするには難しいものです。現地現場の状況を早く飲み込むことが必要です。

●草内倉庫前の枯れ木の処分 3 年ぶり完全処分実現 草内倉庫の整理の下ごしらえ整う 里山農園 1 号地 2 号地に覆いかぶさるように山の斜面に生い茂っていたコナラやクヌギがナラ枯れ病に侵され、小枝が落下してくる事態が度々確認されました。風が吹くと随分と危険な場所に当たります。野菜栽培にヘルメットの使用が必要になっていました。農園作業での安全度アップのためにナラ枯れ病で枯れ始めた巨木の撤去を行い、寸切りして運び出したものを草内の倉庫前広場に集積しました。薪割り機を購入して割り始めました。販売処分も行いましたが、燃料としては適格性を欠くものでした。3 年目が過ぎ去ろうとしていました。このままの姿(寸切り)で放

置することにもならず、一人で持ち運びが可能になる大きさにすることが必用でした。9月初旬から少しずつ割り始め10月末には全部割り終わりました。11月になって処分に取り掛かり、昨日12日に運び出しが完了しました。これで草内の前広場が復元できて、倉庫内に押し込んでいる資材や道具などをすべて外に運び出して整理するための一歩が準備できました。

●河川レンジャー運営会議 中尾さん新しく任命され、中西、大釜、山村元秀さんに続いて4人体制となる 木津川管内河川レンジャーアドバイザーが山村、福井、田中、山田さんの4人となり、随分と充実した体制となりました。これまでのレンジャー諸氏は里山の会の会員でもあって、本体の会の活動を通じて多方面の活動に参加し、知識も体験も多く重ねたところで企画立案を踏んでレンジャーに任命されてきました。したがって、本体の里山の会の活動への充実必要性もレンジャー活動の充実も理解して活動を発展させてきました。現在現職となっているレンジャーはこうした経験などがなく、里山の会との関係は年々希薄となって、表裏一体の活動ではなくなっているように見受けられています。それが今回長年続いてきた沿川活動団体交流会の開催中止となったように思われます。交流会の取り組みの狙いは河川レンジャーだけでは活動の幅が狭くなるので、幅広く沿川活動団体と一緒に木津川に関する活動を交流しあっていこうということで出発した取り組みです。それがレンジャー各位の私的な都合で取り止めの方向とのことに意思統一されたとのことです。規模を考え方法を考え万策を追求されたようにも思えません。各位のご都合もあるでしょう、しかしそのような中でも意義ある取組だから実行できる体制を組むべきではないだろうか。仲間の支え合いや苦勞を補う仲間意識が希薄になっていくものだと受け止めました。

●中聖牛3段目の設置位置が決まる 上流80mになる 11月9日に杭打ちを行いました。■木津川は過日の台風19号の増水で大きく流れが変わりました。特に玉水浜では右岸が侵食洗掘されて、通路がほとんどなくなり砂洲の砂が流され水没してワンドになってしまいました。そのワンドのところが第3番目に設置する今年の中聖牛の設置予定になっているので、水中での作業になってしまいます。それはなかなか難しいので陸上で組み上げて、超大型のユンボで設置することにしました。問題は水上に設置された蛇籠に15トンのあまりの玉石をどのようにして運び入れるかが大きな課題になっています。難題を抱えて苦しんでいます。 ■台風19号の増水で川の変形が大きくなっています。今回の増水で随分と東側に流れが変わりました。これまで砂洲であったところの砂が流され砂州が小さくなりました。 ■今回の聖牛設置は水中ワンドの真ん中になる 水中での針金の結束を行うこととなります。慣れない大変な工事になりそうですので陸上で組み上げてから、定位置にユンボで運び込みを考え検討中です。

●11月12日里山農園作業日 6人の出席で 夏の野菜畑の始末をする 現在先週に続いて火曜日の定例農園作業日に6人の皆さんが集まってくださいました。夏野菜の後片付けに精を出しました。そしてイノシシの進入路らしき所が7箇所発見されました。少なくともその場所の外側の草刈りを徹底的に実行することと、話をすすめました。これまではとりあえず1・2号地の防護に勢力のほとんどを注いで来ましたが、7カ所の対策を行えば侵入を防げるとことになります。防護網の設置方法を各種検討して効果のあり方、出来るだけ簡単な方法を見つけ出せればと思います。何よりも外周の雑草をこまめに刈り取ることが決め手と思われる。

●京田辺環境フェスタ 17日 里山の会は今年も出展予定 出来るだけ地元で活動しているサークルの方々の活動発表の場が出発したところが、年を経るにしたがって、地元で活動する団体の出展参加が少なくなって、京田辺市内の企業の出展が多くなってきました。そしてパートナーシップのサークルの取り組みの頑張りで継続されているように見えます。エコとか環境に取り組む地域活動が少なく、取り組みの中心が子どもへのサービスを考えた出店に重きが置かれている様子です。里山の会は、京田辺市の木に指定されているナンキンハゼの実を採取し乾燥させ、色付けを行って、今では少なくなった松ぼっくりを拾い集めて松かさツリーづくりを提供しています。市の指定されているところを詳しく説明を繰り返しています。また普賢寺小学校の大きな松ぼっくりを初めて知ったという人にも出会えて楽しい取り組みで参加しています。